



第33号

有功会ながの

発行
事務局

長野県赤十字有功会

日本赤十字社長野県支部

TEL 026-226-2073 FAX 026-223-4181

〒380-0836 長野市南県町1074 URL <https://www.jrc.or.jp/chapter/nagano/>



年頭のごあいさつ

長野県赤十字有功会 会長 浅井 隆彦



明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆さんには、日頃より当会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年振り返って、「大阪・関西万博」を思い出される方は少なくないのではないでしょうか。赤十字は、誕生から4年後の1867年にパリ万博へ出展し、“敵味方の区別なく救護すること”を世界に発信しています。この万博会場で、佐賀藩から派遣された佐野常民（日赤の初代社長）が赤十字を知ったことが日本赤十字社創設の契機となりました。まさに「日赤発祥の原点は万博にあり」とされる所以です。そこで、当会は、昨年9月に「国際赤十字・赤新月運動館（赤十字パビリオン）」を訪れる研修旅行を実施いたしました。

赤十字パビリオンのテーマは「人間を救うのは、人間だ。」。その言葉が示す通り、展示された内容は、人間の尊厳を守るために行動する赤十字の姿を、力強く語りかけてきました。「気づく」「考える」「実行する」をそれぞれのコンセプトとして設定された3つのゾーンでは、世界の人々が直面する困難に触れ、人道支援の最前線で奮闘する赤十字職員の姿に心を打たれました。特に、2つめのゾーンにある没入型ドームシアターの紛争地や災害現場の映像は、言葉を失うほどの迫力と真実味があり、苦しむ人々に寄り添い、命を守るという赤十字の使命が、いかに深く職員の心に根付いているのかを教えてくれました。参加者一同、赤十字の活動は、「人を思う心」そのものであることを強く感じ、その心が、人道支援の力となって希望を生み出していることを学ぶことができました。

また、昨年は、戦後80年となる節目の年でもありました。国内各地で、後世に歴史を継承し、平和について共に考える取組が実施されていました。日本赤十字社も多くの医療従事者を戦地に派遣したことは、長野県赤十字歴史資料館においてもご覧いただけると思いますが、そのような歴史と国際人道法の観点から、赤十字は1945年以来一貫して核兵器の廃絶を訴えています。赤十字は、人道危機が発生しているところに、その旗を立て、人道支援活動を展開しています。幸いにも国内に紛争は起こっていませんが、世界的規模の気候変動は、全国各地に自然災害の頻発化・激甚化を招いています。赤十字の力が必要なときに確実な活動が展開されるよう、当会としましても、“人間のいのちと健康、尊厳を守る”使命に協力してまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

結びに、令和8年が皆さんにとりまして、健やかで希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げまして、ご挨拶いたします。

令和7年度有功会総会の開催

令和7年5月22日、第32回長野県赤十字有功会総会を開催しました。

第1部の総会では、浅井会長の挨拶に続き、議事では第1号議案「令和6年度事業報告及び収支決算」、第2号議案「令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）」、第3号議案「会則の改正」についてそれぞれ審議され、いずれも原案のとおり承認されました。

第2部では、令和6年度に日本赤十字社へ多額のご寄付をされた方々に対し、紺綬褒章、厚生労働大臣感謝状、社資功労感謝状及び赤十字有功章が伝達されました。

第3部の講演では、長野県埋蔵文化財センター調査指導員の中野亮一様を講師に迎え、「日赤の母 大給恒」と題したご講演をいただきました。参加者からは「日赤創立150周年を迎えるにあたり、創設者のひとりである大給恒公を様々な角度から知ることができて良かった」との声が聞かれました。



受賞された方々と一緒に記念撮影



長野県埋蔵文化財センター 中野亮一 様による講演

令和7年全国赤十字大会への参加

令和7年5月13日、明治神宮会館にて「令和7年全国赤十字大会」が開催されました。

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下をはじめ、秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下の各名誉副総裁のご臨席を仰ぎ、全国から赤十字社員やボランティアの代表など約1,400人が参加し、当会からも2名の会員が参画しました。

この大会は、赤十字事業の発展に尽力した功労者を表彰し、日頃の活動に感謝を伝える場として、毎年5月の赤十字運動月間に開催されています。今大会では、個人92名、法人・団体27社が有功章の受章対象となり、そのうち個人10名、法人3社が皇后陛下より直接授与されました。



全国赤十字大会（明治神宮会館）に参加された長野県関係者

式典冒頭では、清家社長が令和6年に発生した能登半島地震や水害に対する全国からの支援と赤十字ボランティアの協力に感謝の意を表し、創立150周年を迎えるにあたり、赤十字運動のさらなる推進への決意を語りました。

実践活動報告では、福井県立大野高等学校JRC部の印牧弥音さん^{かねまさみお}が、地域の伝統食材を活かしたスイーツ開発や国際理解活動について発表。日赤名古屋第二病院の稻田眞治医師からは、令和6年の災害医療支援活動について、現場での対応や課題を交えた報告がありました。

式典後には、赤十字創始者・佐野常民らの志を描いた寸劇も披露され、赤十字の歴史と理念が改めて参加者の心に刻まれました。

令和7年度 長野県赤十字有功会研修旅行のご報告

～「大阪・関西万博」と 神戸・京都をめぐる3日間～



柴田 敬一郎

今年度の有功会研修旅行は、令和7年9月16日から18日まで『「大阪・関西万博」と神戸・京都をめぐる3日間』と題して実施されました。

例年ですと、安曇野日赤中野名誉院長が格調高い名文でご紹介しておりましたが、今回は残念ながら不参加という事で、元部下の私が報告させていただきます。

1日目は、例年と異なりホテル集合でスタートしました。大阪駅徒歩圏内のホテルということでしたが、大阪駅構内は迷路のような大地下街が広がっており、田舎者がたどり着くのは容易ではありません。私は、県支部の徳武課長にSOSを出して連れて行ってもらいました。

さて、ホテルの地籍は「梅田」となっていますが、実は「曾根崎」という場所でした。「曾根崎」といえば、話題の映画「国宝」のクライマックスで上演される「曾根崎心中」の舞台です。ホテルの正面は「曾根崎お初天神通り」というアーケード商店街で、5分ほど歩くと「お初天神」と呼ばれる「露天神社」があり、おりからの「国宝」ブームを受けて、若い女性で賑わっていました。

集合時間の5時15分になると、名古屋周り、敦賀周り、あるいは高速バスで駆け付けた参加者22名がロビーに集合。会食場所の「かに道楽梅田店」は、ホテルの目の前です。

力尽くしの料理を前に、浅井会長のあいさつを皮切りに宴会がスタート。1年ぶりに再会する皆さんも多く、力尽くしの料理は無口だなんてどこ吹く風、大いに語り、食べました。

添乗員の方からの、万博の注意事項「とにかく歩く、暑い、並ぶ」を噛みしめて、明日に備えて早めに休む方が多かったようです。

2日目は、薄曇りながら雨の気配はなく、絶好の万博日和となりました。

昨夜の注意事項から早めの行動を心掛け、予定時間前に出発。一路万博会場へ。



1年ぶりの再会を喜ぶ会員（1日目 夕食「かに道楽」）



普段触れる機会の少ない国連の活動や歴史を学ぶ
(大阪・関西万博「国際連合パビリオン」)

空いているパビリオンを攻略して10か所も回った方や、早々にレストランに落ち着いてゆっくり楽しんだ方など様々でした。

私は、「お土産買うなら早めに」という添乗員さんのアドバイスで西ゲート近くのオフィシャルショップに向かいましたが、すでに行列が。それでも10分ほどで入店できましたが、中はすし詰め状態。人の流れのまま進むしかなく、じっくり選ぶなんて出来ません。

手あたり次第目についた物をかごに入れていく、気が付くと大散財でした。

買い物だけで疲れて大屋根リングの下で休憩。大迫力の木造建造物に圧倒されました。

その後、折角なので大屋根リングに登ってぐるっと一周してみましたが、いつのまにか多くのパビリオンに行列ができる大賑わいでした。レストランやフードコートも行列で、大屋根リングの下に降りてみると、遠足の小学生が弁当を広げていたり、疲れ切った人たちが座り込んでいたりと大混雑。歩くのも大変な状況ですが、照り付ける日差しを避けられるのはここしかなく、「これがあって良かった。」と実感しました。

集合時間になり赤十字パビリオンに向かうと、さすが日赤だけあって、日よけのテントや大型の送風機と、行列の暑さ対策が万全でした。周りには、日赤マークを付けた様々なグループが待機していて、予定どおりには入場できませんでしたが、館内では、迫力ある映像と工夫を凝らした展示を満喫しました。何より、冷房の効いた室内で着席して鑑賞できたのがたかったです。



東日本大震災で「命の砦」となった石巻赤十字病院の赤十字旗
(大阪・関西万博「赤十字パビリオン」)

バスを降りるとすぐ横に大屋根リング。いよいよ万博だと期待は高まりますが、なぜか逆方向へ進む行列。入場の西ゲートまで15分ほど歩きます。ゲート前はすでに人の波。

それでも15分ほど待って無事入場でき、添乗員さんの先導で最初の入場先である「国際連合パビリオン」に向かいます。

西ゲートからパビリオンまでは、会場の3分の2ほどを横断する行程でしたが、ゲート周辺を過ぎると混雑は解消され、通過したほとんどのパビリオンに行列は無く、9時入場の恩恵を受けました。予定どおりに国連パビリオンを見学。本命の赤十字パビリオンはお隣で、13時の集合までは自由行動です。

手あたり次第目についた物をかごに入れていく、気が付くと大散財でした。

買い物だけで疲れて大屋根リングの下で休憩。大迫力の木造建造物に圧倒されました。

その後、折角なので大屋根リングに登ってぐるっと一周してみましたが、いつのまにか多くのパビリオンに行列ができる大賑わいでした。レストランやフードコートも行列で、大屋根リングの下に降りてみると、遠足の小学生が弁当を広げていたり、疲れ切った人たちが座り込んでいたりと大混雑。歩くのも大変な状況ですが、照り付ける日差しを避けられるのはここしかなく、「これがあって良かった。」と実感しました。

集合時間になり赤十字パビリオンに向かうと、さすが日赤だけあって、日よけのテントや大型の送風機と、行列の暑さ対策が万全でした。周りには、日赤マークを付けた様々なグループが待機していて、予定どおりには入場できませんでしたが、館内では、迫力ある映像と工夫を凝らした展示を満喫しました。何より、冷房の効いた室内で着席して鑑賞できたのがたかったです。



赤十字の使命に共感する来場者からの心温まるメッセージとともに
記念撮影 (大阪・関西万博「赤十字パビリオン」)



液状化現象を再現した実験を興味深く見学する会員
(阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」)

ものでした。

その後ホテルで一休みした後は、本日最後のお楽しみ、「神戸クルーズ」です。

ポートタワー、観覧車、ホテル等の美しい夜景の中、我々の乗船した「コンチェルト」は神戸港を出港。素敵な個室で、本格的なフランス料理のフルコースを楽しみ、ワインとピアノの生演奏に酔いしました。

あいにくの小雨模様もあり、夜景はちょっと暗めではありましたが、優雅な一時を楽しめました。

ホテルに戻ると9時を回っており、昼間の万博疲れもあって、バタンキューの方がほとんどだったようです。

最終日3日目は、神戸から京都までの長距離ドライブになりました。昨日の疲れもあり、うとうとする方多かったです、「太陽の塔」の横顔や、「甲子園球場」の照明塔など、ガイドさんの隠れスポットの案内を聞きながら、心配された渋滞も大したことなく、無事「東寺」に到着しました。

東寺は正式名称を「金光明四天王教王護国寺秘密伝法院」と言い、延暦13（794）年に、平安遷都とともに桓武天皇によって建立された官寺（国立の寺院）で、嵯峨天皇により弘法大師空海に託され、五重塔をはじめ主要な伽藍が整えられました。

お坊さんの案内で、国宝の金堂や重文の講堂などを回り、講堂では、弘法大師の密教の教えを表現した立体曼荼羅に圧倒されました。

そして、特別公開時にしか拝観できない「五重塔」の初層内部にも特別に入れていただきました。

さらに数を増した人込みを搔き分けて西ゲートから退場し、バスに戻って一安心。

前評判通りの「とにかく歩く、暑い、並ぶ」万博でしたが、スタッフの皆さんの温かい対応が印象的でした。

次は、神戸の阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」に向かいます。

予定よりスムーズに移動して予定時間前に到着。5階建の建物2棟からなり、予想以上の規模に圧倒されました。

展示内容も、特撮を駆使した大迫力の地震映像や、巨大なジオラマ、工夫を凝らした体験展示と盛りだくさんで、万博会場に勝るとも劣らぬ充実した



乗船したクルーズ船「コンチェルト号」
(2日目 夕食「神戸クルーズ」)



万博の感想を語り合う会員
(2日目 夕食「神戸クルーズ」)



東寺の歴史や五重塔の説明に熱心に耳を傾ける会員（東寺（教王護国寺））

東寺の五重塔といえば、4度の焼失を経ていますが、地震では一度も倒壊したことが無いことから、その構造が「東京スカイツリー」にも採用されたことで有名ですが、その基礎の部分や貴重な仏像を間近で拝観することができました。

さらに、やはり通常は拝観できない「小子房」にも入らせていただきました。小子房は、毎年正月に勅使を迎える建物で、内部には日本画家「堂本印象」の襖絵が描かれた6室があります。

特に最奥の「勅使の間」は、他の部屋の水墨画と異なり、極彩色のきらびやかな襖絵と手の込んだ内装が素晴らしい印象的でした。

これらの特別な拝観は、天皇家ゆかりの寺だけに、愛子様がお勤めされている関係で日赤の力により実現したのかと思いましたが、JTBのお陰だということでした。

今回、万博に強いという事でJTBにアテンドをお願いしたとお聞きしていましたが、貴重な体験をさせていただき大感謝です。

余談ですが、ここ東寺は、映画「国宝」のジャパンプレミアが行われた場所で、主演の吉沢亮や横浜流星が訪れたと、軽妙洒脱な解説で小子房を案内していただいた女性にお聞きしました。

初日の「お初天神」とともに、思いがけず「国宝」の聖地巡りにもなりました。

その後、インバウンドの外国人や観光客でごった返す京都駅に向かい、駅直結の「ゆば京旬菜 松山閣」で京都らしいゆば料理を満喫し、2泊3日の研修旅行は無事終了となりました。

京都観光を続ける方、大阪へUターンする方、わが家へ一目散の方など、次回の再会を願いながら解散しました。

このような有意義で楽しい旅行に同行できた有功会員各位、企画された支部職員、お世話いただいた添乗員氏とバススタッフの皆さんに心から感謝いたします。



別れを惜しんで次の再会を約束しあう会員
(3日目 昼食「ゆば京旬菜 松山閣」)

赤十字事業への協力



大給恒の紙芝居（表紙）

長野県支部では、令和9年に迎える創立150周年に向けて、日本赤十字社の誕生に尽力した初代副社長で、また佐久市臼田にゆかりのある「大給 恒」にスポットライトを当てるPR事業を展開しています。

この第一弾として、令和7年度は、一般の方々に「大給 恒」の功績や人柄を周知し、赤十字を身近に感じていただきたため、長野県赤十字広報奉仕団紙芝居班が作製した紙芝居「大給 恒～次世代へとつづく赤十字の道」を絵本化する事業を行っています。

当会は、この事業が日本赤十字社の歴史を顧みるとともに、人々の赤十字活動への関心が高まることが期待できることから有意義であると判断し、費用の一部を助成しました。

あなたの思いを赤十字に ～遺贈・相続財産寄付をお考えの皆さんへ～



近年、「自分で築いた財産の一部を寄付したい」、「故人の遺産を社会のために役立てたい」というお声を多くいただいております。日本赤十字社を通じて、ご自分の財産や故人の遺志を広く社会に役立てていただくことができます。

ご遺言等によるご寄付（遺贈）や相続財産のご寄付などの尊いご意志に応えるため、日本赤十字社長野県支部では、ご寄付の方法や税制上の優遇措置などを掲載したパンフレットを用意しております。

遺贈：遺言によって財産の全部または一部を団体などの第三者に与えること
相続財産寄付：相続により取得した財産の全部または一部を寄付すること



遺贈・相続財産寄付 ご案内パンフレット

詳細については、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先 日本赤十字社長野県支部 組織振興課 電話 026-219-2562

令和6年度 受賞された方々 (敬称略、五十音順)

【紹綴褒章】

個人	勝山てる子*	山上正視			
----	--------	------	--	--	--

計2名

【厚生労働大臣感謝状】

個人	岡宮 照行	金児 猛夫	小古井 豊*		
法人・団体	株式会社 八十二銀行*	株式会社 本久*			

計5名・法人・団体

【社資功労感謝状】

個人	小口 邦彦*	北島 正悟	清澤 研道	清野 泰宏*	小古井 豊(2回受章)*
	塚田 次郎*	中澤 昌子	中野 武(2回受章)*	納富 廣幸	米山 四郎
法人・団体	株式会社 青木鐵工所	飯島建設株式会社*	株式会社 栄建*	株式会社エイワ機工*	キッセイ薬品工業株式会社
	有限会社 春原工業所	善光寺大本願	株式会社徳永電機*	長野北ロータリークラブ	日穀製粉株式会社*
	有限会社二村不動産	株式会社 八十二銀行*	株式会社北信臨床	株式会社丸山工務店	株式会社 本久*
	株式会社 守谷商会*	株式会社 安井建設	WashiON 株式会社		

計30名・法人・団体

【金色有功章】

個人	井沢 永美	伊東 由夫	岡宮 照行	勝山てる子*	金木 朝子
	神村 盛宣	後藤 耕雄*	酒井 徳子	菅沼 賢人	寺島 秀昭
	西澤 久平*	山崎 喜美	横多 弓子*		
法人・団体	株式会社ケアネット	セラテックジャパン株式会社	竹村工業株式会社	公益財團法人長野県健康づくり事業団*	株式会社 八十二銀行*

計18名・法人・団体

【銀色有功章(日本赤十字社)】

個人	磯村 高之	伊東 重誓	稻垣 英和	井上 尚司	上條 敬一
	京沢 かつ恵	児玉 修悟	五味 何心*	阪田 美詠子	竹内 典子
	塚原 崇	中山 二郎	Nashik Edgard	西澤 征恭	蓮井 浩
	林 初子	藤井 哲尚	正木 やよい	丸山 正一	丸山 祐弘
	三谷 墓一	宮本 博夫	山岸 寿一	山崎 義之*	
法人・団体	あさひ福祉サービス株式会社	医療法人 大村歯科医院	医療法人 川中島クリニック	医療法人 小林歯科医院	信越放送株式会社*
	合資会社 親湯温泉	株式会社電算*	有限会社トザワ	立正佼成会長野教会	ロードアンドスカイ株式会社

(※) 当会員

計34名・法人・団体

新会員のご紹介 (敬称略、五十音順)

個人	勝山てる子	五味 何心	宮坂 佐和子	横多弓子	
----	-------	-------	--------	------	--

あとがき

健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆さまのご協力により、無事に第33号を発刊する運びとなりました。心より御礼申し上げます。

昨年は、日本初の女性首相誕生やスポーツ界における日本人選手の大活躍など、未来への新たな一步を刻む一方、米価格の高騰が社会問題化した「令和の米騒動」は、聞き慣れない「古古古米」が注目されるなど、古から変わらない日本人にとってのお米の存在が再認識されました。このような中、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした大阪・関西万博において、赤十字パビリオンは、世界中から31万人超の来場者をお迎えし、好評のうちに終了することができました。

近年は、日本の四季が感じにくくなり、「二季」と表されるほどになりました。全国各地で頻発する災害や出没している熊は、人間と自然との関わり方を再考する象徴のようにも感じております。

令和9年5月に日本赤十字社は創立150周年を迎えますが、変わりゆく時代や自然環境の中で、赤十字は不变の存在でありながらも、的確に、また、柔軟に対応できる組織・運動体として、今後も活動していきたいと心を引き締めています。

引き続き、会員各位のご支援を賜りますようお願い申し上げるとともに、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。(有功会事務局)